

(3)中学校グループA

発表者 中野 敬太 (尾鷲市立輪内中学校 教諭)

1) これまでの防災教育の実施効果

「生徒たちが主体的に学習に取り組むこと」、防災学習に限らず自分たちが率先して動く場面が見られ、防災についても自分のこととして考えることができるようになってきました。「命を大事にする」、そんな中で普段から悪口を言ったり、いじめたり、そういったことをしている場合ではないということで、思いやりが非常に高まってきました。それから「地域との関わり」も非常に深く、今までも防災学習に限らず地域と連携して行うことなどはあったのですが、防災でもつながりができ、異年齢の人々に関わる中で、コミュニケーション能力も高まったということが挙げられました。

2) 効果的な防災教育に求められること

生徒主体の学習を進めていく必要性、外部との連携、地域・保護者への伝え方・発信の方法です。連携することは大事だけれど、何かの会をするときにいかに人を集めるか。以上のことを整理していく必要があると思います。

3) 防災教育を継続的に実践していくための仕組みづくりに求められること

効率化・スリム化です。防災学習は、いろんな中身、いろんなことをしないとイケません。そうするとぼやけてしまったり、パンクしてしまったりするので、ある程度しぼってやっていく必要があるかと思います。防災学習・人権などつながっている部分は整理してまとめてやったらいということ。そして、必ずファイルはとっておく。誰もが見えるようにしておく。担当が変わっても、授業する人が変わっても、以前の資料や実施内容をいつでも見られるような状態にしておくこと、これが大事かと思います。

4) 本協議会で今後議論したいこと

いかに地域・保護者に伝えていくか、人を集めるかです。文化祭のときはたくさん集まりました。その後、防災の公開授業や講演会をやったところ、ガクッと参加率が下がったということがありました。それから、引き渡し訓練を実施してもあまり参加してもらえません。もっともっと保護者・地域にたくさん集まってもらえるようにするには、どうしたら良いかなという成功例を紹介していただいたらよいと思います。

